

## ▼オムニスキャン静注32%シリンジ [注] &lt;2024.3 販売中止&gt;

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ガドジアミド水和物 Gadodiamide Hydrate 【分類】MRI 用造影剤

【単位】▼20mL/筒, ▼10・▼15・▼20mL/シリンジ

【常用量】0.2mL/kg [最大 20mL] 腎臓を対象とする場合 0.1mL/kg

【用法】静注

【透析患者への投与方法】NSF のリスクとなるため原則禁忌 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】重篤な腎障害患者には NSF のリスクとなるため原則禁忌 (1) eGFR 30ml/min/1.73m<sup>2</sup> 未満 (透析症例を含む) の場合には、ガドリニウム造影剤使用後の NSF 発症の危険性が高いとされており、非造影 MRI 検査、単純 CT、超音波検査などの検査で代替すべき (腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン, 日本医学放射線学会・日本腎臓学会 2008) eGFR が 30 ml/min/1.73m<sup>2</sup> 以上、60ml/min/1.73m<sup>2</sup> 未満の場合には、ガドリニウム造影剤使用後の NSF 発症の危険性が必ずしも高くないとする意見もあるが、ガドリニウム造影 MRI 検査による利益と危険性とを慎重に検討した上で、その使用の可否を決定すべき。なお、その際には、オムニスキャンは使用を避けるのが賢明であろう (腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン, 日本医学放射線学会・日本腎臓学会 2008) 【その他の報告】GFR 30mL/min 以上 : 0.1~0.2mL/kg, GFR 30mL/min 未満 : NSF に関連するため投与を避ける (17)

【特徴】非イオン性 MRI 用 (ガドリニウム) 造影剤。NSF の発生率が高いため、特に腎障害患者での使用は避ける。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー、痙攣、腎性全身性線維症 (NSF)、過敏症、血圧低下、かゆみ、頭痛、めまい、悪心・嘔吐など

【安全性に関する情報】Gd 造影剤の中で NSF のリスクが高く、直鎖状構造が関連しているとされる (5)

【代謝】代謝されない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 100% (1) 【CL】1.91±0.11mL/min/kg (1)

【t1/2】α相 3~8min, β相 1hr (1) Scr 2~4mg/dL 程度の腎障害患者で 350min に延長 (1)

【蛋白結合率】3%以下 (1)

【Vd】0.15~0.19L/kg (1)

【MW】645.72

【透析性】HD 除去率 65~74% (1) PD では 22 日後までの除去率 69% (1) APD10~15 回/日交換の 2 日間で 90%除去される (Murashima M, et al: Clin Nephrol 69: 368-372, 2008) 1 回の HD で 74.1%, 3 回の透析で 98.8%が除去された (阿部研雄記, ほかに 日腎会誌 46: 810-814, 2004)

【O/W 係数】油相には移行しない [1-オクタノール水系] (1)

【更新日】20240425

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。